



「環境首都・札幌」宣言

「環境首都・札幌」を目指すことを宣言し、「さっぽろ地球環境憲章」を制定しました。

札幌市では、市民一人一人がこれまで以上に地球環境保全に取り組んでいく決意をし、世界に誇れる環境都市を目指すため、2008年6月25日に札幌市が世界に誇るコンサートホールkitaraを会場に「環境首都・札幌」宣言市民式典を開催し、世界共通言語である音楽を通じて、「環境首都・札幌」を宣言しました。

さっぽろ地球環境憲章

- 前章 わたしたちは、四季折々の美しい自然と豊かな文化を次世代へ伝え、地球と札幌のより良い環境を創造する札幌の市民です。
- 1 章 豊かな水やみどりを守り、育むまちをつくります。
 - 2 章 資源をむだなく使い、ごみの少ない循環型のまちをつくります。
 - 3 章 エネルギーの消費を減らし、自然エネルギーを活用するまちをつくります。
 - 4 章 環境に配慮した製品や食材を、進んで利用するまちをつくります。
 - 5 章 環境への負荷が少ない交通網を活用するまちをつくります。
 - 6 章 環境保全について学び、行動するまちをつくります。
 - 7 章 地球環境の改善に寄与し、世界の平和に貢献するまちをつくります。



【ロゴについて】音符のマークと音波をイメージした「eco capital Sapporo」の文字に「環境首都・札幌」を世界に響かせる、発信していくという願いを込めたものです。



昨年度の「環境首都・札幌」宣言市民式典の様子

「環境首都・札幌」宣言のための作品

“We act for the earth!” Overture

この曲は、昨年の6月、札幌市の「環境首都・札幌」宣言市民式典のために作曲しました。

主調はへ長調で、ベートーヴェンの交響曲第6番「田園」に代表されるような自然を思わせる明るい調です。ソナタ型式でできており、第1主題は決意表明をするような男性的な旋律、第2主題は木管楽器を主体としてやさしく演奏される祈りの旋律です。この二つの旋律には誰かが歌詞を付けてくれたらなあという思いもあり、歌いやすいように作りました。

地球環境は年々悪化するばかりです。それに対して音楽家がができることは少ないかもしれませんが、この曲が環境のことを考えるきっかけになればと思います。



作曲：中原達彦

1968年長崎市生まれ。福岡教育大学および同大学院を経て、東京芸術大学別科作曲専修を修了。作曲を内山信、川崎絵都夫、尾高惇忠の各氏に師事。ピアノを福田伸光氏に師事。主な作品に、札幌交響楽団プラスプロジェクト第1回演奏会委嘱作品「ファンファーレ」～札幌シンフォニックプラスのための祝典序曲、宗像市制10周年記念ファンファーレ、交響詩「鳴門・渦潮」などの管弦楽作品、数多くの吹奏楽のための作品や編曲作品のほか、姜建華、仲道デュオ、五郎部俊朗、福島明也、ケミストリーなどの有名アーティストのアレンジ作品などがある。

札幌市立啓明中学校吹奏楽部

本吹奏楽部は今年度、創部50周年を迎えました。吹奏楽コンクールでは毎年札幌地区代表の常連校であり、北海道大会でも全道トップレベルの成績をあげています。コンクール以外の活動も多く、校内外での演奏など一年間を通して大変忙しく多くの本番がある部活ですが、生徒達は音楽を愛好し、吹奏楽に情熱をそそぎ、人間性の向上と技術の習得に毎日努力を積み重ねております。

顧問 田中 義啓

